

南中学校 各教科の手立て

	多様性	
	子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実	
	手立て① 生徒が自分の考えをもつための工夫	手立て② 単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの提示 ・話し合い活動の設定 ・発表(全体、小グループ)の場の設定 ・振り返りカードでの今日の振り返り、単元のまとめの記入 ・ノートやプリント、タブレットで自分の考えをまとめる活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・前の単元で学んだことの確認 ・自分の考えを書いたあとの共有 ・単元毎の話し合い活動(隣、自由、小グループ)
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のための手立てを自分で考える場面の設定 ・振り返りを通して自分の考えを整理する場面の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現したり、他の人の考えを聞く話し合い活動
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・答えが限られていない問いの設定 ・単元の見直し・振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ・班隊形での考えの共有・発表
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的な問いの提示 	<ul style="list-style-type: none"> ・仮説、考察の共有の時間の充実
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの生徒が自らの意見を発表できるような、生徒の身近なものへの話題設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文法の間違いを探す(エラーコレクト)活動での意見交換 ・SmallTalkを含む会話活動を中心とした話し合い活動の充実
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめの課題・目標設定 ・問いかけの工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアやグループでの教え合い ・課題解決のための話し合い活動 ・スモールティーチャーの設定
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・調べ学習の設定、調べる内容に興味をもたせるような工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の意見や調査内容から、自分の考えを発表する場面の設定
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品の鑑賞や、制作している姿の観察 ・話し合い活動や鑑賞会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品への思いや工夫を話し合う活動の設定
技術家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる対象を決めさせる ・日々の生活を振り返り、実生活とリンクさせながら生徒から問いを引き出す工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・他者の意見を聞く時間を十分に設定する ・課題解決に向けて、生徒が必要感をもって話し合う場面の意図的な設定

主体性	
子どもが楽しさを見いだす学びの工夫・充実	
手立て① 単元・題材計画の工夫	手立て② 形成的評価の充実
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・前の単元で学んだことの確認 ・単元毎の話合い活動(隣、自由、小グループ) ・まとめ方の手段の選択 (ノート、タブレット)
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材設定 ・多様なプロセスが生まれる題材の設定 ・生徒の疑問を活かした発問
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・導入の工夫
理科	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入における、日常から生まれる疑問の視覚化
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味や流行に沿った文法導入やテーマ設定
体育	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身が課題に応じて練習内容を考える活動 ・練習を選択できるなどの工夫 ・ICTを活用した技能について考える活動 ・実生活を基にした課題設定
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・調べる楽しさを見だし、他の人の意見を聞いて考えの変容を感じる活動
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の興味関心を引き出す発問 ・用具、材料の準備
技術 家庭科	<ul style="list-style-type: none"> ・自分で考えさせる活動 ・自分の生活を振り返って適切な課題を決めさせる

南中学校 社会科学習指導案

授業学級	第 1 学年 2 組
単元名	B 世界の様々な地域 (2) 世界の諸地域 ⑤南アメリカ
授業者	矢作 雄大

第1学年2組 社会科学習指導案

日 時 令和8年2月3日(火) 第6校時
生徒数 男子16名 女子18名 計34名
活動場所 1年2組教室
指導者 教諭 矢作 雄大

1 単元名 B世界の様々な地域 (2)世界の諸地域 ⑤南アメリカ

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、学習指導要領の地理的分野B 世界の様々な地域(2)世界の諸地域⑤南アメリカを基にして、ア(ア)、(イ)及びイ(イ)を受けて設定したものである。この単元でねらいとしていることは、以下のとおりである。

(2) 世界の諸地域

次の①から⑥までの各州を取り上げ、空間的相互依存作用や地域などに着目して、主題を設けて課題を追究したり解決したりする活動を通して、以下のア及びイの事項を身に付けることができるよう指導する。

- ① アジア ② ヨーロッパ ③ アフリカ
④ 北アメリカ ⑤ 南アメリカ ⑥ オセアニア

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 世界各地で顕在化している地球的課題は、それが見られる地域の地域的特色を受けて、現れ方が異なることを理解すること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州に暮らす人々の生活を基に、各州の地域的特色を大観し理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) ①から⑥までの世界の各州において、地域で見られる地球的課題の要因や影響を、州という地域の広がりや地域内の結びつきなどに着目して、それらの地域的特色と関連付けて多面的・多角的に考察し、表現すること。

南アメリカ州については、南北に長く、東西で高低差が大きい地形、古代文明や植民地支配の歴史、農業や工業の産業の発展等を大観する学習を踏まえ、地球的課題である森林伐採の問題や経済発展のための開発などの諸課題を多面的・多角的な視点から考えることが求められる。

南アメリカ州にある豊富な資源をめぐっては、2025年11月10日から21日にかけてブラジルで開催されたCOP30の会場にアマゾン先住民ら乱入し、石油開発や違法伐採などを非難したことからも分かるように、対立は解消されていない。

このような現状を踏まえ、南アメリカ州の森林伐採・開発という課題を多面的・多角的に考察する。方針が対立している中での共通の価値を、諸資料から読み取り、根拠をもって解決方針を探究することで、地球的課題である地球環境問題との共通性に気付き、持続可能な社会づくりを考えるうえで効果的な学習が展開できる単元である。

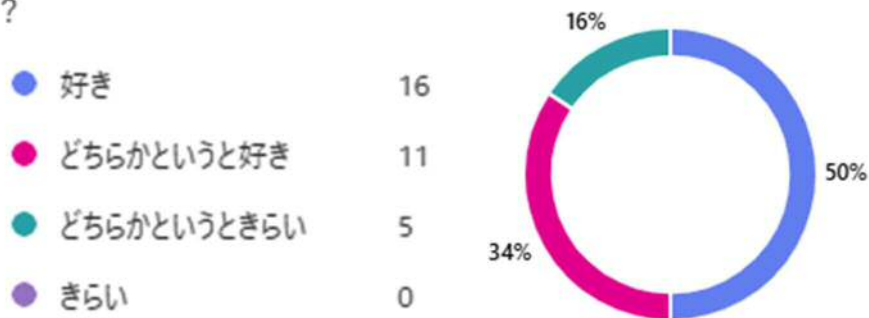
(2) 生徒の実態

本学級の生徒は、社会科が「好きである」または、「どちらかというが好きである」という生徒が84%を占めている。多くの生徒がグループで学習することのよさを実感していることが、このようなアンケート結果につながっていることが分かった。生徒は、グループ活動のよさとしては、自分の考えに加えて仲間の見方・考え方を知ることによって学習が深まること、わからないところをすぐに質問できること、全員で協力して学習を進めることができることなどを挙げている。このようにグループ活動のよさを生徒が実感し、社会科の資質・能力を身に付けるとともに非認知能力を身に付けることで、生きる力を少しずつ伸ばすことができている。

授業の中では、これまでに授業で取り扱った地球的課題を他の地域の学習をしている際に見いだすことができている生徒が多い。このことから、既習事項を記述的知識や分析的知識だけでなく、概念的知識として活用することができていることが分かる。また、自身の成長を視覚的に確認できるふりかえりシートによって、授業前後での成長を生徒自身が実感し、形成的評価の充実につなげることができている。

課題点としては、自身の意見と正反対の意見を持つものが現れた際に、理解しあえない存在として距離を自ら取るという解決策を用いる生徒が多いことである。社会科のグループワークを通して、多面的・多角的に一つの事象を考えることで、自分の考えと相手の考えの両方を尊重した考察や表現をできるようにしていく。

社会科は好きですか？



(3) 指導観

意図的なグルーピングによって、社会科に苦手意識を抱えている生徒を教師一人の目で支援していくのではなく、教室全体で支援ができる仕組みをつくっていく。このことによって、生徒たちは社会科に対する苦手意識を解消し、さらに効果的に資質・能力を身に付けることができる。

南アメリカ州では、森林伐採・開発について対立する2つの立場から、環境・経済・人々の暮らしの視点をもって考える。様々な資料を通して、根拠のある考えを形成していくとともに、地域的特色をつかみ、関連付けて考察することができるようにする。

これらのことを通して、対立する立場にありながらも共通する価値を目指していることに気づき、対立する考えは相容れない考えなのではなく、さらにより考えを生み出す可能性があるということにふれることができるようにしていきたい。

ふりかえりでは、学級全体のまとめを自分の獲得した知識をもって再構成することで、生徒一人一人が自分の力で地域の特色と地球的課題を関連付けて多面的・多角的に考察し、表現することにつなげる。

3 研究主題とのかかわり（別紙参照）

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は社会科における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えをもつための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実
社会科	・答えが限られていない問いの設定 ・単元の見通し，振り返り	・班隊形での考えの共有・発表

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
社会科	・導入の工夫	・視覚的に成長を実感できるふりかえりシート

4 単元の目標

- ・南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に，地域的特色を大観し，その場所での地球的課題の現れ方を理解する。

【知識及び技能】

- ・南アメリカ州において見られる地球的課題の要因や影響を，地域内の結びつきや地域的特色と関連付けて，環境・経済・人々の暮らしの面から，多角的に考察し，表現する。

【思考力・判断力・表現力等】

- ・南アメリカ州において見られる課題を主体的に追究する中で，自分と相手の考えを大切にし，納得解を見出している。

【学びに向かう力・人間性等】

5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿（評価）	「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動
1	南アメリカ州に暮らす人々の生活を基に，地域的特色を大観し，その場所での地球的課題の現れ方を理解する。	南アメリカ州の地球的課題の要因・背景を予想し，その課題解決への見通しをもって主体的に追及しようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】 資料を基に，南アメリカ州の自然，歴史，産業，人々の暮らしの特色を理解している。 【知識・技能】	<u>主体性</u> 南アメリカ州の自然地理・人文地理に関する資料を収集し，まとめる。
2	南アメリカ州において見られる地球的課題を，地域的特色と関連付けて多	資料をもとに，南アメリカで見られる地球的課題を環境・経済・人々の暮らしの視点に	<u>多様性</u> 資料を読み取る際に，他者と協働することで，さまざま

	面的・多角的に考える。	ついて、よい点と悪い点の立場から理解している。 【知識・技能】	な角度からものごとを見る ことができることを感じながら、地球的課題の要因や影響を考える。
3	南アメリカ州において見られる地球的課題を、地域的特色と関連付けて多面的・多角的に表現する。	資料をもとに、南アメリカで見られる地球的課題を環境・経済・人々の暮らしの視点について、よい点と悪い点の立場から考え、グループの中で考えをまとめ、表現することができる。【思考・判断・表現】	多様性 前時に他者と協働して考えたことをもとに、他のグループにどのように自分の意見を伝えればよいかを考える。
4	南アメリカ州のブラジルにおいて見られる地球的課題を解決するために、これまで学習したことを基に多面的・多角的に表現し、対立する双方の納得解を考える。	資料をもとに、南アメリカ州のブラジルで見られる地球的課題を環境・経済・人々の暮らしの視点について、よいと悪い点の立場から考え、表現することを通して、双方の立場からの納得解を考えている。【思考・判断・表現】	多様性 南アメリカ州において見られる課題を主体的に追究する中で、自分と相手の考えを大切にし、納得解を考える。

6 本時の学習指導（4／4時）

（1）本時の目標

- ・南アメリカ州において見られる地球的課題を解決するために、これまで学習したことを基に多面的・多角的に表現している。【思考・判断・表現】
- ・南アメリカ州において見られる課題を主体的に追究する中で、自分と相手の考えを大切にし、納得解を見いだしている。【学びに向かう力・人間性等】

（2）展開（★「連携」の視点は別紙参照）

過程	学習活動	○学習内容 ・生徒の反応	◇評価の視点 ・指導上の留意点 ★「連携」の視点
導入 5分	1 単元を貫く課題及び本時の課題を確認する	<p style="text-align: center;">単元を貫く課題及び本時の課題 南アメリカ州は森林を開発するべきなのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のニュースの画像を使い、ブラジルで実際に先住民のデモなど衝突が起きていることを大観できるようにする。

	<p>2 話し合いに向けて、自分のグループの主張と根拠を確認する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・開発すべき インフラの整備によって、人々の暮らしの向上につながるから ・開発すべきではない 人々がこれまでに築き上げてきた文化を破壊してしまう可能性がある 	
<p>展開 35分</p>	<p>3 これまでに学んだことをもとに、森林の開発に賛成派と反対派の立場に立って討論をする。</p>	<p>○南アメリカ州の森林開発を進めることによる良い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インフラが整備され、地域間の教育や生活における格差を縮めることができる ・油田の開発や農耕地の増加による経済発展が望める ・バイオエタノールの燃料となるさとうきび畑が増加し、環境への負荷を減らすことができる ・大豆の栽培地を増やし、増加する人口に対応する食糧の増産が望める <p>○南アメリカ州の森林開発を行うことによる悪い点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生物の多様性を守ることができない可能性がある ・先住民の文化を守ることができない可能性がある ・ブラジルの漁獲量に影響を及ぼす可能性がある ・貴重な観光資源である自然を失うことにつながる <p>・なぜ、森林を開発することが漁獲量に影響を及ぼすのか</p> <p>・バイオエタノールのために、さとうきび畑を増やし、森林を破壊すること</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が話している際は、すぐに反論などはせず、相手の意見を受け入れる姿勢を大切にさせる。 ・根拠のある議論になるよう、主張をする際は必ず資料を明示するように指導する。 ★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実（小学校の手立て①⇔中学校の手立て②『班隊形での考えの共有・発表』）

		<p>で、環境に負荷がかかっているのではないか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝統的な焼き畑農業を取り入れることで、森林の減少を抑えたり、アグロフォレストリーを取り入れたりとすることで、森林の生物多様性も守ることができる ・アマゾンの湖や支流で行われている淡水漁業は、付近の生態系や水系が変わることで影響を受ける。 	<p>◇【思考・判断・表現】 南アメリカ州において見られる地球的課題を解決するために、これまで学習したことをもとに多面的・多角的に表現している。</p> <p>評価Bに達しない生徒の支援 →これまでのワークシートを参考に意見を形成するよう助言する</p>
<p>終末 10分</p>	<p>4 まとめ</p> <p>5 ふりかえりシートを記入する</p>	<p>○この授業で話し合ったことをもとに、持続可能な開発についての自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アマゾンの森林は未来に自然や文化を残すために保護しつつ、そこで暮らす人々の生活を向上させる持続可能な開発を行う <p>○地球的課題の解決に向けて、自分たちがどのように考えを持つべきか考える。</p>	<p>「環境保全と開発」の解決の難しさを実感できるようにする。</p> <p>◇【学びに向かう力・人間性等】 地球的課題を主体的に追究する中で、自分と相手の考えを大切にし、納得解を見いだししている。</p> <p>評価Bに達しない生徒の支援 →自分の意見だけでなく、他者の意見を取り入れた納得解を見いだすことができるよう助言する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球的課題には、日本も関わっていることを意識できる資料を提示する。 <p>★視点：子どもが楽しさを見出す学びの工夫・充実（小学校の手立て③⇔中学校社会科の手立て②『視覚</p>

			的に自分の成長を感じる ことができるふりかえり シート』)
--	--	--	-------------------------------------

南中学校 国語科学習指導案

授業学級	第 1 学年 5 組
単元名	いにしえの心にふれる 蓬菜の玉の枝―「竹取物語」から
授業者	高橋 茉那

第1学年5組 国語科学習指導案

日 時 令和8年2月3日(火) 第5校時
生徒数 男子17名 女子17名 計34名
活動場所 1年5組教室
指導者 教諭 高橋 茉那

1 単元名・教材名 いにしえの心にふれる 蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から

2 単元について

(1) 教材観

本単元は「いろは歌」「蓬萊の玉の枝」「今に生きる言葉」の三つで構成された中学校で初めての古典単元である。音読などを通して古文や漢文特有のリズムを味わい、古典の世界に親しむことを主なねらいとしている。

「竹取物語」は「源氏物語」の中で「物語の出で来はじめの祖」と記されており、現存する日本最古の物語文学であるといっても差し支えない作品である。現代まで千年以上も読み継がれ、親しまれてきた。本教材では、竹取の翁がかぐや姫を見つける物語の冒頭、くらしの皇子の冒険談の場面、かぐや姫昇天の場面、残された帝が不死の薬を燃やす場面を原文で示している。まずは仮名遣いに注意しながら音読し、古典のリズムに慣れ、言葉の切れ目に気を付けさせたい。また、内容については人間の様々な側面を描く物語であることを読み取らせ、古典に親しみをもたせたい。

(2) 生徒の実態

生徒は、小学校で文語調の詩や短歌・俳句などに触れ学習しているが、古典の物語や漢文の「読むこと」「言語事項」は初めてとなる。しかし、今回の教材である「竹取物語」の話は大まかな話の展開を知る生徒がほとんどであり、それを古文で読むという新鮮さは、生徒たちの興味を高めると思われる。

本学級の生徒にアンケートにて実態調査を行ったところ、以下のような回答が得られた。

(調査人数 34名)

1 国語の授業は好きですか。

とても好き 12%(4) 好き 35%(12) 普通 44%(15) あまり好きではない 9%(3) 嫌い 0%(0)

2 国語の単元で好きなものは何ですか

文学的文章 50%(17) 説明的文章 15%(5) 古典 15%(5) 文法 9%(3) 言語事項 12%(4)

3 国語の単元で苦手なものは何ですか

文学的文章 9%(3) 説明的文章 15%(5) 古典 24%(8) 文法 35%(12) 言語事項 18%(6)

4 話し合い活動は好きですか

とても好き 32%(11) 好き 44%(15) どちらかという嫌い 21%(7) 嫌い 3%(1)

本学級の生徒は、国語への苦手意識がとても高いが、「国語の授業は好きか」という質問には、半数ほどの生徒が国語の授業が「とても好き」「好き」と回答していた。また、好きな単元について回答させると文学的文章への回答が最も多く、古典に対しては苦手意識をもつ生徒が多くいた。本単元は生徒たちに親しみやすい単元であるため、古典が苦手な生徒でも前向きに学習に取り組む環境を作るのが最善であると考え。また、話し合い活動に対して肯定的な意見が多い一方で、グループ活動に対して苦手意識をもつ生徒や、話し合いに参加できない生徒もいるため、意図的なグルーピングで全員が話し合い活動に参加できるようにさせたい。

(3) 指導観

指導にあたっては、生徒の興味関心を生かしながら、まず読みなれることに重点をおきたい。毎時間帯時間を設けて音読を行い、個人練習やペア音読・丸読み・一斉読み・暗唱等を行うことで、声を出す機会を多く作って古典特有の言い回しやリズムに親しませたい。また、毎時間グループによる話し合い活動を取り入れ個人の意見を全体に発表する機会を多く作りたい。最後にプレゼンテーションを行わせることで、根拠をもとに相手に伝えることを意識させたい。さらに振り返りカードに疑問などを記入させ自己の考えの変化を記録させるようにする。

3 研究主題とのかかわり (別紙参照)

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は国語科における手立てである。

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えをもつための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいの提示 ・話し合い活動の設定 ・発表(全体、小グループ)の場の設定 ・振り返りカードでの今日の振り返り、単元のまとめの記入 ・ノートやプリント、タブレットで自分の考えをまとめる活動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前の単元で学んだことの確認 ・自分の考えを書かせたあとの共有 ・単元毎の話し合い活動(隣、自由、小グループ)

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・前の単元で学んだことの確認 ・単元毎の話し合い活動(隣、自由、小グループ) ・まとめ方の手段の選択(ノート、タブレット) 	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りカードの活用

4 単元の目標

(1) 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむことができる。 〈知識及び技能〉 (3)ア

(2) 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。

〈思考力、判断力、表現力等〉 C(1)オ

(3) 言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

5 本単元における言語活動

登場人物について考え、かぐや姫の結婚相手を選び、ふさわしい理由を伝え合う。

(関連：言語活動例 C(2)イ)

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体性に学習に取り組む態度
① 音読に必要な文語のきまりや訓読のしかたを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。 ((3)ア)	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにしていく。 (C(1)オ)	① 粘り強く文章を読んで理解し、学習課題に沿って話し合いをしようとしている。

7 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の視点に基づく学習活動
1	作品を歴史的仮名遣いに注意しながら音読し、物語のあらすじを捉える。	音読に必要な文語のきまりや古文特有のリズムを味わいながら進んで古文を繰り返し音読しようとしている。	多様性 振り返りカードを用いて、小学校での学習を想起させ、自分の学習目標を立てる。ペア・班で音読を行う。
2	冒頭部分とくらもちの皇子の内容を捉える。	本文を読み、竹取物語の冒頭部分とくらもちの皇子の場面の内容を理解できている。	主体性 くらもちの皇子の計画について、グループでまとめる。
3	かぐや姫昇天の内容を捉える。	本文を読み、かぐや姫昇天の場面の内容を理解できている。	多様性 かぐや姫・帝・翁それぞれの立場に立って考えをまとめる。
4・5	5人の貴公子について行動をまとめ、プレゼンができるように材料を集める。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする事ができる。	主体性 5人の貴公子の行動について、グループごとにプリント・タブレットを選択してまとめる。

6	結婚相手としてふさわしい人物をプレゼンする。	班で協力し、自分の考えを発表することができる。	多様性 グループでなぜその貴公子が結婚相手にふさわしいかを話し合い、発表する。
---	------------------------	-------------------------	---------------------------------------------------

8 本時の学習指導（本時6／6時）

（1） 本時の目標

- ・文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができる。

〈思考力・判断力・表現力等〉C(1)オ

- ・言葉がもつ価値に気づくとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切に、思いや考えを伝え合おうとする。

〈学びに向かう力、人間性等〉

（2） 評価規準

- ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。

【思考・判断・表現】

- ・粘り強く文章を読んで理解し、学習課題に沿って話し合いをしようとしている。

【主体性に学習に取り組む態度】

（3） 展開（★「連携」の視点は別紙参照）

学習活動	○学習内容	◇評価の視点 ・指導上の留意点 ★「連携」の視点	時間
1 前時までの学習を振り返り、本時の課題を確認する。	○前時までの学習内容の想起 ○振り返りカードの記入	○本時の学習内容をもとに目標を設定する。	3
かぐや姫の結婚相手としてふさわしい人物をプレゼンしよう。			
2 5人の貴公子について確認する。	○5人の貴公子の行動・人物像	○前時に使用したプリントをもとに5人の貴公子の人物名・難題・失敗談を、ICTを使用して確認する。	3
① くらもちの皇子 難題 蓬萊の玉の枝 〈失敗談〉人目につかない家にももってにせの玉の枝を作らせたが、匠たちに押しかけられたことによって、にせ物とばれてしまう。 ② 石作の皇子 難題 仏の御石の鉢 〈失敗談〉天竺に探しに行くとうそをつき、大和国の山寺から鉢を持ち帰ったが、にせ物と見破られた。 ③ 右大臣阿倍御主人 難題 火鼠の皮衣 〈失敗談〉唐土の商人に大金を払い、火をつけても決して燃えない「火鼠の皮衣」を買い求めた。しかし、姫が火にくべさせると、あっさり燃えてしまった。 ④ 大納言大伴御行 難題 竜の首にある五色に光る玉 〈失敗談〉自ら探しに船を出す、あらしで遭難。竜の怒りを買ったと恐れて断念した後、病気で、竜の玉のように目が真っ赤にはれてしまった。 ⑤ 中納言石上磨足 難題 燕の持たる子安貝 〈失敗談〉自ら籠に乗り、屋根の高さに吊り上げさせて巢の中の子安貝を取ろうとした。何かを手にして下りようとした瞬間、つながり切れ、転落。しかも、にぎっていたものはつばめのふんであった。			

<p>3 プレゼンの準備をする。</p>	<p>○資料の確認 ○発表練習</p>	<p>○全員が発表に参加できるように分担を決める。 ○人物を説明する上でのキーワードなどを記入した資料を準備する。</p>	<p>7</p>
<p>4 3～4人の学習班で、それぞれの考えを交流する。</p>	<p>○発表の仕方 ○考えの根拠となる描写 ○他の班の発表を聞いて気づいたことや考えたこと。</p>	<p>○前時のまとめを根拠に、他の班に結婚相手にふさわしい人物のプレゼンを行う ○自分の担当以外の貴公子についての意見が聞けるように発表順を配慮する。 ○適宜メモを取る。 ★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実 小学校の手立て②⇔中学校国語における手立て②『発表(全体、小グループ)の場の設定』</p>	<p>24</p>
		<p>◇【思考・判断・表現①】 観察・プリント</p>	
<p>5 単元のまとめをする。</p>		<p>○単元のまとめ ○現代とのつながり</p>	<p>8</p>
<p>〈予想される生徒の反応〉 ・翁たちがかぐや姫を授かったときの喜びや、大切な人と離れなければならないかぐや姫や帝の悲しみは、現代の人々にも通じる。 ・五人の貴公子がかぐや姫に求婚していたが、現代でも結婚相手を決める際には色々な条件で決めると思う。 ・平安時代に書かれた物語が現代まで語り継がれていて、他の古典でも同じように感じるのか気になったので、竹取物語以外の古典も読んでみたい。</p>		<p>○古典の物語を読んで、現代とつながる部分を考えてとともに、興味をもったことや、もっと知りたいと思ったことを、友達と伝え合う。</p>	

<p>6 学習の振り返りをする。</p> <p>○振り返りシートの記入</p> <p>〈期待される生徒の振り返り〉</p> <p>他の班と交流したときに、自分が選んだ貴公子の良さだけを捉えるだけでなく、他の貴公子たちの欠点を踏まえてプレゼンをしていた〇〇さんの班の意見に、「まとめにそんな視点もあるのか」と考えさせられた。他の物語文を読む時にも様々な視点から登場人物について考えてみたい。</p>		<p>○本時の目標に沿った振り返りをする。</p> <p>○今回の単元で学んだこと、今後に生かしたいこと、これからの課題を単元のまとめに記入させる。</p> <p>★視点：子どもが楽しさを見いだす学びのための工夫・充実</p> <p>小学校の手立て③⇔中学校国語における手立て②『振り返りカードの活用』</p>	5
--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---

(4) 板書計画

グループでまとめた意見を
ホワイトボードに書き、貼る。

③まとめ

【発表順】

②発表

①発表準備

○今日の流れ

かぐや姫の結婚相手としてふさわしい人物を
プレゼンしよう

P.156 如月三日
蓬萊の玉の枝―「竹取物語」から
〈本時の目標〉

【4回目】	【3回目】	【2回目】	【1回目】
①石作 A—くらもち B	石作 A—石上 A	石作 A—大伴 A	石作 A—阿部 A
②阿部 A—大伴 A	阿部 A—くらもち B	阿部 A—石上 A	大伴 A—石上 A
③石上 A—くらもち A	大伴 A—くらもち A	石作 B—くらもち A	石作 B—石上 B
④大伴 B—石上 B	阿部 B—石上 B	石上 B—くらもち B	阿部 B—くらもち A
⑤阿部 B—石作 B	石作 B—大伴 B	阿部 B—大伴 B	大伴 B—くらもち

南中学校 数学科学習指導案

授業学級	第 3 学年 2 組
単元名	三平方の定理
授業者	二階堂 龍誠

第3学年2組 数学学習指導案

日 時 令和8年 2月 3日(火) 第5校時
 生徒数 男子20名 女子17名 計 37名
 活動場所 3年2組教室
 指導者 教諭 二階堂 龍誠

1 単元名 「7章 三平方の定理」

2 単元について

(1) 教材観

三平方の定理は、義務教育における図形領域の最後の学習内容であり、総まとめともいえる。小学校から扱われてきた面積や体積・表面積といった学習の上に、いわゆる求積関係の総合的な問題として位置づけることができる。定理をもとに未知の辺の長さを求めるためには、二次方程式や平方根についての知識・技能が必要である。また、中学校1年で学習した平面と直線の位置関係から直角であることを判断して定理を利用したり、中学校2年生で学習した証明の方法を利用しながら三平方の定理の証明を知ったり、中学校3年生の円や相似の学習内容を利用したりする場面がある。このように、幅広い既習内容が単元全体の学習につながっている。

(2) 生徒の実態

2学期末に取ったアンケートの結果、生徒の多くが数学の問題に対して粘り強く考え続ける姿勢が身についていることがわかる。また、他の人の考えや回答を理解しようとする生徒が非常に多く、授業者の解説を真剣に聞く姿もよく見られる。しかし、グループ活動や教えあい活動に関する項目は他の項目と比べて低く、協働して問題に取り組む姿勢は今後の課題である。本時の授業を通して、未知の問題に対して協働して問題に立ち向かう機会を作りたい。

【3年2組 数学授業アンケート (12月24日実施・回答30名)】

	あなたは問題に対して粘り強く考えているか？	グループ活動・教え合い活動に積極的に参加しているか？	他の人の考えや回答を理解しようとしているか？
そう思う	50%	38%	65%
どちらかといえばそう思う	31%	42%	23%
どちらともいえない	15%	12%	8%
どちらかといえばそう思わない	0%	8%	4%
そう思わない	4%	0%	0%

(3) 指導観

義務教育最後の図形の学習でもあるので、図形領域の総まとめという側面を意識して扱いたい。三平方の定理の証明については、基本的には証明ができることを知ることが目的である。三平方の定理の逆の証明については、間接証明の方法を知る機会ではあるものの、生徒が自ら証明するのは難しいので、紹介する程度とする。三平方の定理の学習は、図形と数式を総合的に把握することができる場面の1つでもあるので、ていねいに扱っていく。

具体的な問題については、平面図形に関する問題を扱った後、それに類似した空間図形の問題を考

えさせる。生徒はある問題が理解できても、その条件が少し変わるだけで理解できなくなってしまうことが少なくない。問題の条件を変えながら、生徒が自分の力で内容を掘り下げていってるような実感が伴う指導を理想としたい。

また、三平方の定理が日常のさまざまな場面でいかされていることに目を向け、未知の課題に対しても主体的に取り組む姿勢を育みたい。

3 研究主題とのかかわり（別紙参照）

令和6・7年度 舟戸学園連携教育研究テーマ

「学びをつなげ 夢をはぐくみ 未来を拓く 連携教育の推進

～多様性を尊重した関わりの中で主体的に学び続ける子どもたちの育成を目指して～

以下は数学における手立てである

舟戸学園	視点：多様性『子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「生徒が自分の考えを持つための工夫」	手立て②「単元・題材計画における意図的な話し合い活動の充実」
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決のための手立てを自分で考える場面の設定。 ・振り返りを通して自分の考えを整理する場面の設定。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを表現したり、他の人の考えを聞く話し合い活動。

舟戸学園	視点：主体性『子どもが楽しさを見いだす学びの工夫・充実』	
南中	手立て①「単元・題材計画の工夫」	手立て②「形成的評価の充実」
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材設定 ・多様なプロセスが生まれる題材の設定 ・生徒の疑問を活かした発問 	<ul style="list-style-type: none"> ・単元途中での小テストの実施 ・授業内の声掛け ・振り返りの実施

4 単元の目標

- ・三平方の定理の意味を理解することができる。 【知識及び技能】
- ・三平方の定理を見いだすことができる。
- ・三平方の定理を具体的な場面で活用することができる。 【思考力・判断力・表現力等】
- ・三平方の定理のよさを実感して粘り強く考え、三平方の定理について学んだことを生活や学習にいかそうとしたり、三平方の定理を活用した問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとしたりすることができる。 【主体的に学習に取り組む態度】

5 単元計画と評価及び主題にせまる学習活動（配当時間 13 時間）

	本時の目標	目標を達成した子どもの姿 (評価)	「主体性・多様性」の 視点に基づく学習活動
1	三平方の定理を証明できることを知る。	三平方の定理の証明方法を理解し、プリントにまとめている。	三平方の定理を様々なやり方で証明し、そのやり方を発表しあう。(多様性)
2	2辺の長さがわかっている直角三角形の残りの辺の長さを求めることができる。	辺の長さの求め方を理解し、問題を解いている。	グループで問題を解きながら、辺の長さの求め方を考える。(主体性)
3	三平方の定理の逆について知り、その仕組みを理解することができる。	三平方の定理の逆が成り立つことを説明できるようになり、プリントにまとめている。	グループで問題を解きながら、三平方の定理の逆が成り立つことを説明しあう。(主体性)
4	三角形が直角三角形かどうか判断することができる。	三角形が直角三角形か判断する方法を理解し、問題を解いている。	自身の理解度に合わせた問題プリントに取り組む(主体性)
5	平面における線分の長さや面積を求めることができる。	三平方の定理を用いて線分の長さや面積を求め、問題を解いている。	自身の理解度に合わせた問題プリントに取り組む(主体性)
6	座標平面上の2点間の距離を求めることができる。	三平方の定理を用いて2点間の距離を求め、問題を解いている。	自身の理解度に合わせた問題プリントに取り組む(主体性)
7	身の回りの場面から問題を設定し、三平方の定理を利用して問題を解決することができる。	身の回りの場面から直角三角形を見つけ、三平方の定理を利用して問題を解いている。	身の回りの場面から三平方の定理を使って長さを求める。(主体性)
8	三平方の定理を利用して、 $\sqrt{2}$ や $\sqrt{3}$ などの無理数を数直線上に表す方法を考える。	三平方の定理を利用しながら、無理数を数直線上に表す方法を考えている。	グループで相談しながら、無理数を数直線上に表す方法を考える。(主体性・多様性)
9	直方体の対角線の長さを求めることができる。	三平方の定理を利用することによって、直方体の対角線の長さを求めることを理解している。	グループで相談しながら、直方体の対角線の長さの求め方を考える。(主体性・多様性)
10	正四角錐の高さと体積を求めることができる。	三平方の定理を利用することによって、正四角錐の高さと体積を求めることができることを理解している。	グループで相談しながら、正四面体の高さや体積の求め方を考える。(主体性・多様性)
11	身の回りの立体から問題を設定し、三角形の定理を利用して問題を解決することができる。	これまでの授業で得た知識を組み合わせることで、問題を解決しようとしている。	グループで相談しながら、身の回りの立体から設定した問題の解決方法を考える。(主体性・多様性)
12	授業で学んだ知識や技能をまとめ、振り返り今後の学びに活かそうとしている。	単元末レポートに取り組み、授業で学んだ知識や技能をまとめ、振り返っている。	作ったレポートを見せ合い、授業で獲得した知識やレポートの作り方を共有する(多様性)
13	章末問題	これまで学習したことを使いな	わからない問題は生徒間で相談

		がら章末問題を解いている。	し、既習内容を確認しながら章末問題を進める。(主体性)
--	--	---------------	-----------------------------

6 本時の学習指導 (11 / 13 時間目)

(1) 本時の目標

- ・身の回りの立体から問題を設定し、三平方の定理を利用して問題を解決することができる。

<思考・判断・表現>

- ・課題解決の過程を振り返り、次の課題を見つけようとしている。

<主体的に学習に取り組む態度>

(2) 準備

- ・プリント ・直方体の箱 ・輪ゴム ・ハサミ ・方眼紙

(3) 展開

学習活動	○学習内容 ・生徒の反応 ★「連携の視点」	◇評価の視点 ・指導上の留意点
1 問題場面の共有	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>問題</p> <p>縦の長さが5cm、横の長さが12cm、高さが3cmの直方体のプレゼント用の箱があり、この直方体の面全ての面を通るように、リボンを弛むことなく巻き付ける。なるべく短いリボンで巻き付けるとき、リボンの長さは何cmになるか考えなさい。</p> </div>	<p>・実物の箱を見せて、問題場면을共有する。</p> <p>★視点：子どもが楽しさを見いだす学びの工夫・充実 小学校の手立て①⇔中学校数学における手立て① 「身近な題材設定」</p>
2 課題を提示する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうしたら直方体にまきつくリボンの長さを求めることができるだろうか？</p> </div>	
3 問題を解くための手立てを考える	<p>○どのように考えたら問題を解決できるのか、個人で考える。</p> <p>○3～4人のグループになり、問題の解決方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リボンがピンと張れば良い ・展開図を使うとわかりやすい ・リボンの通る道がまっすぐな直線になる。 <p>○解決方法を全体で共有する。</p>	<p>・必ず個人で考える時間を作り、どのように解決しようとしているのかを見取る。</p> <p>・実物の道具を用いて自分なりの考え方で問題の解決方法を考えていく。グループや学級で考え方を共有しながら解決に近づいていく。授業者はグループで生まれたアイデアを他のグループ</p>

<p>4 問題を解決する。</p>	<p>○共有したことをもとに問題を解決する。 欲しいグループには直方体の箱と輪ゴム、ハサミ、方眼紙を渡す。</p> <p><問題解決例> 直方体の箱を展開して考えると、リボンの通る道が1本の直線になる。この直線の長さをxcmとすると、三平方の定理より次の関係が成り立つ。</p> $\{2(5+3)\}^2 + \{2(12+3)\}^2 = x^2$ $1156 = x^2$ $x = 34$ <p style="text-align: right;">A. 34cm</p> <p>○解決方法を全体で共有する。</p>	<p>に共有するなど、ファシリテートに努める。</p> <p>★視点：子どもが様々な考えを交流する学びの工夫・充実 小学校の手立て②⇔中学校数学における手立て② 「自分の考えを表現したり、他の人の考えを聞く話し合い活動」</p> <p>◇直線の長さを求める際、直角三角形を見つけて長さを求めている。<思考・判断・表現：机間指導></p> <p>C 評価の生徒への対応 ・展開図と方眼紙を配り、自分なりに考えてみることを促す。 ・グループの他の生徒と話すことで理解を促す。</p>
<p>5 次にどのような課題が考えられるか考察する。</p>	<p>・どんなときでもなりたつのか（一般化できるか） ・本当に最短なのか（証明できるか）</p>	<p>◇課題解決の過程を振り返ったり、新しい課題を見つけようとしている。<主体的に学習に取り組む態度：プリント記述></p>
<p>6 本時の内容をまとめる。</p>	<p>○今回の問題解決過程を振り返って、大事な考えだと思ったことをまとめる。</p> <p>・立体において最短で進む道を考えたとき、平面上では直線になる。</p> <p>・直角三角形を見つけることで、長さを求めることができる。</p>	<p>・まとめのときは、本時の授業でわかったこととわからなかったことを区別してまとめる。</p> <p>★視点：子どもが楽しさを見出す学びの工夫・充実 小学校の手立て③⇔中学校数学における手立て② 「振り返りの実施」</p>

(4) 板書計画

課題：どうしたら直方体にまきつくリボンの長さを求めることができるだろうか？

<問題解決>

<まとめ>

<解決の手立て>

- ・
- ・

※黒板とモニターを用いて板書を行います。

【解答例】

